

JR 東日本上越線 土合駅

施設管理者：東日本旅客鉄道株式会社

施設所在地：群馬県利根郡みなかみ町

調査見学時期：令和4年10月17日（月）

施設概要

土合駅（下り線）は、上越線の複線化のために建設された新清水トンネル（下り線専用、延長 L=13,490m）内に位置することから「日本一のモグラ駅」と称される駅です。下り線の開業は1967年9月28日であり、開業から約55年経過しています。

上り線の駅（地上駅）と下り線の駅（地下駅）は、新清水トンネルの工事中の掘削土（ずり）搬出や資機材供給のために構築された斜坑で連結されています。この斜坑は、長さ約338m、上下線のホーム高低差約80m、斜坑部の階段数は462段となっています。地下ホーム部から斜坑の入り口を望むと先端部は目視で確認できないような深さであり、土木構造物としての迫力やモグラ感を体感できます。

55年以上も前にこのような地下構造物（駅舎・斜坑）が構築され、現在まで周辺住民の生活の中で供用されていることや斜坑をそのまま駅の連絡通路として利用するという考えに、我が国の土木技術力の高さ、土木＝市民工学であることを再認識しました。

本施設は、土木学会選奨土木遺産「JR 上越線清水トンネル関連施設群」の一つとなっています。



地下ホーム部から斜坑入り口を望む



駅ホームの様子